

.....その他の言語が学べる学校.....

私学での英語教育において、「英語を話せるのは当然」という風潮のなか、他の言語を学べる学校も多くあります。たとえば●星美学園や●獨協などのように、学校の設立に関わる言語を学ぶほか、アジアとの関係性を見越して中国語や韓国語が学べる学校も増加しています。

●カリタス女子中学高等学校校長の齋藤哲郎先生は、フ

ランス語を第2外国語として続ける理由を「ことばの背景に、豊かな文化があることに気がついてほしい」と言います。また●淑徳では土曜日の語学教養講座として、生徒の家族も一緒に参加できる中国語韓国語の講座を開講しています。

必修なのか選択で教養レベルなのかなど、どの程度まで身につくのかもチェックしてみましょう。

第2外国語が学べる学校(抜粋)

	学校名(授業形式・実施学年)
イタリア語	【女子校】星美学園(選択・高2・3)
韓国朝鮮語	【男子校】芝浦工業大学(選択・高1～)、武蔵(選択・中3～高3) 【女子校】神田女学園(選択・高1～)、淑徳与野(選択・高1～)、玉川聖学院(選択・高2・3) 【共学校】桜美林(選択・中3～高3)、啓明学園(選択・高2・3)、自由の森学園(選択・高2・3)、淑徳(選択・中1～)、二松學舎大学附属柏(選択・高2・3)
スペイン語	【女子校】淑徳与野(選択・高1～)、中村(国際科/選択・高1) 【共学校】自由の森学園(選択・高2・3)
ドイツ語	【男子校】獨協(選択・高1～3)、法政大学第二(選択・高3)、武蔵(選択・中3～高3)、明治大学付属中野(選択・高2・3) 【女子校】学習院女子(選択・高1～3) 【共学校】自由の森学園(選択・高2・3)、獨協埼玉(選択・高1～3)
中国語	【男子校】芝浦工業大学(選択・高1～)、法政大学第二(選択・高3)、武蔵(選択・中3～高3)、明治大学付属中野(選択・高2・3) 【女子校】神田女学園(必修・中3、選択・高1～)、吉祥女子(課外授業・中1以降)、国本女子(選択・高1～3)、実践女子学園(グローバルスタディーズクラス/必修・中1～3〈高1・2は選択〉)、淑徳与野(必修・中1～)、東京女子学院(必修〈またはフランス語〉・中2～高1〈高2以降は選択〉)、文化学園大学杉並(選択〈またはフランス語〉・高2～3※) 【共学校】頼明館(選択〈またはフランス語〉・高1・2)、桜美林(選択・中3～高3)、啓明学園(選択・高2・3)、自由の森学園(選択・高3)、淑徳(選択・中1～)、昌平(必修・中2・3)、二松學舎大学附属柏(選択・高2・3)
フランス語	【男子校】暁星(必修・中1～)、武蔵(選択・中3～高3)、明治大学付属中野(選択・高2・3) 【女子校】学習院女子(選択・高1～3)、カリタス女子(必修・中1～3〈高1以降は英・仏いずれかを第1外国語として選択〉)、函嶺百合学園(選択・高2・3)、百合学園(必修・中1～3〈高1以降は英・仏いずれかを第1外国語として選択〉)、聖ドミニコ学園(必修・中1～3〈高1以降は英・仏いずれかを第1外国語として選択〉)、東京女子学院(必修〈または中国語〉・中2～高1〈高2以降は選択〉)、雙葉(必修・中3〈高1以降は英・仏いずれかを第1外国語として選択〉)、文化学園大学杉並(選択〈または中国語〉・高2～3※) 【共学校】頼明館(選択〈または中国語〉・高1・2)、啓明学園(選択・高2・3)、自由の森学園(選択・高2・3)

※文化学園大学杉並 総合コース一般類型以外は高3のみ



▲●カリタス女子では毎年1月に「外国語発表会」(写真上)を実施。そのほか、フランス語を学ぶ学校が一堂に会する「フランス語フェスティバル」も6月に行われている。高1の希望者で行われる「カナダ研修」(写真下)は、多民族国家・カナダの文化に触れるだけでなく、カリタスのルーツ、カリタス修道女会の本部を訪ねる旅だ

英語に限らず、全教科がつながっている

「この先行きが不透明でみんなが不安ななかで、僕らが育てていきたいのは、どんな世の中になっても自分でしっかりと考えて生きていける、自分の指針を自分で見つけられる生徒です」と言うのは、●東京電機大学の阿部裕之先生です。同校では2年間ずつカリキュラムを分け、中1・2年の基礎力養成期は手をかけ、目をかけ、面対見の良い教育を行っています。成長に伴い徐々に手を離していきます、まさにインディペンデンスを促します。「本来の『面倒見の良さ』とは、子どもが自立できるようにすることだと思います」と阿部先生は言います。

「どんなに英語が流暢であつても、話したい内容や気持ちがなければ英語が使えていない、とは言いません。伝えたい内容をもつこと、自分が考えたことを伝えたいと思う気持ち大切です(阿部先生)」。そのため同校は体験型の授業が豊



●東京電機大学では中1で「モーニングレッスン」を実施。ネイティブの先生と一緒に英語の発音やリズムを楽しみながら練習する

グローバル・スタディーズ・プログラム始動。さらに深みを増す国際教育

2010年度より本格的に国際教育改革を行っているのは、1クラス30名程度の少人数教育を敷いている●明法です。中1・2ではチームティーチング(以下TTT)による授業、中3・高1では1クラスを2分割し、15名程度のクラスでネイティブのみの授業となります。

英語科主任で国際交流委員会委員の鎌倉好男先生は、「まだ現在は過渡期ですが」という前置きのあ

富に用意され、実感をともなった学習が進められています。また東京電機大学での特筆事項は、他の教科の先生方が「英語は大切」と生徒たちに事あるごとに言うてくださる点。そのため、今年のセンター試験では、英語の成績が飛躍的な伸びを見せたといいます。なお、今年度よりテキストを「ニュートレジャー」に変更しました。



▲●明法のネイティブの先生はTESOL(英語教授法)教育学修士であり、かつ豊富な教授経験を有したプロの教師陣。カリキュラムづくりから評価に至るまで、徹底的に鍛えられた先生方による授業

と、同校の英会話教育について教えてくれました。同校で大切にされているのは、英語で考え論じられるようになるための、論理的思考力を養うこと。そのレッスンは、中学生のうちは、ペアワークにて5W1Hを会話の訓練の中ですべて組み込み、日常の表現をストーリー立てで説明することを徹底します。答えた内容を追うと自然と一つのストーリーができており、中学レベルでの論理的なスピーチとなっているという方法。そのため、自分でトピックを話し出す際にも、生徒たちは知らず知らずのうちに筋の通った話ができるようになっていくのです。そこから、もっと具体例を付け加えていくことで発展的な内容となっていくます。

こういった訓練を積み重ねていくことで、日常表現を自分の言葉でフリートークができるようにしたうえで、どんなトピックでも語れるようになったら次のステップは、ディベートをするための論理性を鍛えます。

「世の中を知る、社会を知る、自分を知る」教育

高2のアメリカ修学旅行で、名門スタンフォード大学への短期留学を体験し、自身の研究テーマを

高1ではクリティカルシンキングを鍛えるために、たとえば教科書の例文での「like」を「don't like」と逆に変え、なぜ嫌いなのか、その理由をそれぞれが自由に発想するトレーニングをし、クリティカルな議論展開を求められます。反対意見も考えることで、自分とは異なるものを考えたり、異文化を受け入れるための素地も養います。

国際教育「グローバル・スタディーズ・プログラム」の一環として、「21世紀」という科目が高2・3で新しく設置されました。これからの国際社会に対応できる英語運用力とそれを表現するための基礎となる教養とともに、調査・発表・議論などの手法をゼミ形式で学ぶ授業です。高2では、英語科と社会科がコラボレーションして授業を展開。さらに高3でも継続して英語で学ぶ講座が履修できます。この講座を受講した生徒については、将来海外の大学や国内大学の国際関係の学部系統への進学を想定しています。実際に、現在の高3の生徒の中には、海外大学への進学を志望している生徒がいて、個別に指導しているそうです。



▲●宝仙学園理数インターの「アメリカ修学旅行」。スタンフォードでは、自作のロボットを持参してプレゼンした生徒も

英語でプレゼンテーションするのは、宝仙学園理数インターです。昨年は、3月の東日本大震災を受け、それまで準備していたテーマを変更し、発表内容を一から練り直して、日本で暮らす一人の高校生として、感じたこと、考えたこと、実際の行動や実情などを発表しました。

入試広報部長の山崎達雄先生は「スタンフォードの先生方が見ているのは、生徒たちの英語力ではなく、生徒たちが何を伝えるのか」という、その内容です。相手の求めていることを理解して話をする、伝えること、それが「世界標準」であることに、生徒たちはこのプレゼンを通じて気づきます。そして自分の言いたいことを伝えるためには、英語が必要である、ということに自ずと感じていくのです」と言います。

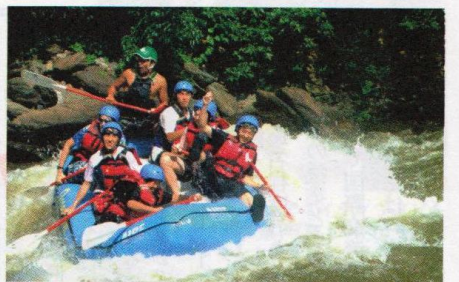
さらに「理系でも英語力は必須ですが、文系の場合はモノが無い

ので、コミュニケーション能力も欠かせません。相手との信頼関係が勝負となり、そのうえでのプレゼン能力が重要になってきます。生徒たちが社会人になる頃には、多くの子が公用語が日本語ではない場所で活躍するのだと思います。中1の終わりのころになると、日本語・英語のほかに、もう1か国語くらいは覚えておく、と思うようです。それは中国語になるのでしょうか(山崎先生)。

校名の「理数」には、自分自身の中で、あるいは相手に対して、物事を論理的に考え伝えることのできる能力(「理数的思考力」という意味が込められ、現代社会に求められる必須の能力です。インターは何かと何かの間をつなぐ」という意味をもちます。自分が誰かとつながるだけでなく、人と人とを結びつけることのできる人物になってほしいという願いが込められています。

強固なネットワークはキリスト教学校の強み!

「道徳人・実力人・世界人」の育成を教育目標としている●明治学院中学校・東村山高高等学校。同校の礎となっているのは、1863(文久3)年にヘボン式ローマ字や聖書の翻訳で有名な宣教師ヘボン博士が創立したヘボン塾です。英語科で副校長の伊藤藤子先生は、「1963(昭和38)年の現校地



▲40年以上の歴史をもつ●明治学院中・東村山高の「アメリカ留学」。成長段階に応じて期間とプログラムが異なっている。写真は中3・希望者参加のサマーキャンプ

たとえば●星美学園では、スカイプやメールを使って、海外の姉妹校の生徒たちと日常的に交流を図っています。●聖心女子学院の国内外の姉妹校ネットワークは141にものぼります。もちろん、宗教色のない学校でも世界中に姉妹校を有している学校は多くあります。学校により、交換留学生制度を整えていたり、関係性はそれぞれなので、こういった交流を行っているのか、学校説明会などで聞いてみるのもいいでしょう。